



コメント

小林 歩氏

働き方の多様化を考慮した新たな 都市鉄道運賃に関する基礎的研究 ～柔軟な定期券サービスに着目して

運輸総合研究所研究報告会・2022年夏

2022年7月29日

コメンテーター・手塚広一郎

アジェンダ

1. 本研究の概要と貢献
2. 本研究の結果から得られるいくつかの解釈
3. 今後の課題として考えられること
4. 質問など

1. 本研究の概要と貢献

本研究の概要

- ▶ 都市鉄道の中でも特に通勤定期に焦点を当てて分析
 - オンライン化による勤務の変化
 - 通勤定期券から普通乗車券への転換
 - 市場環境の変化に伴う定期券の種類が多様化の提案
 - 利用日数に応じた定期券
 - 定期保有者の同伴者割引
 - 日数を限定した定期券の導入による影響をT-ACTによるシミュレーションによって分析

2. 本研究の概要と貢献

- ▶ 本研究の貢献
- ▶ 多様な定期券の形態の活用可能性を示したこと
- ▶ 日数限定定期や同伴定期の導入可能性を提示

- ▶ 運賃市場の分析の深化
 - 乗車券の市場と定期券の市場の違い
 - 定期券の市場の中でも、日数限定定期や同伴割引などによってさらに市場を細分化して分析し
 - T-ACTを用いて、導入による影響を示したこと
 - 上記によって、導入可能性を検討したこと

2. 本研究から得られる解釈

- ▶ コメンテーターの専門分野: 交通経済学
- ▶ 経済学の観点から本研究がどのように見えるか？

通勤定期券

- ▶ “元祖サブスク”
 - 指定された期間にわたって当該区域を“乗り放題”
 - 利用者にとっては、自身の選好に合わせて時間を選択し、サービスを受けることができる。
 - 「貯蔵不可能性」「即時性/即地性」という性質に由来
 - 事業者にとっては、事前に一定の収益を確保できる
- ▶ ただし、利用が限定される局面がある
 - 通勤・通学のピーク時間帯
 - 混雑現象を引き起こす
 - 時間帯別運賃・ダイナミックプライシングの導入

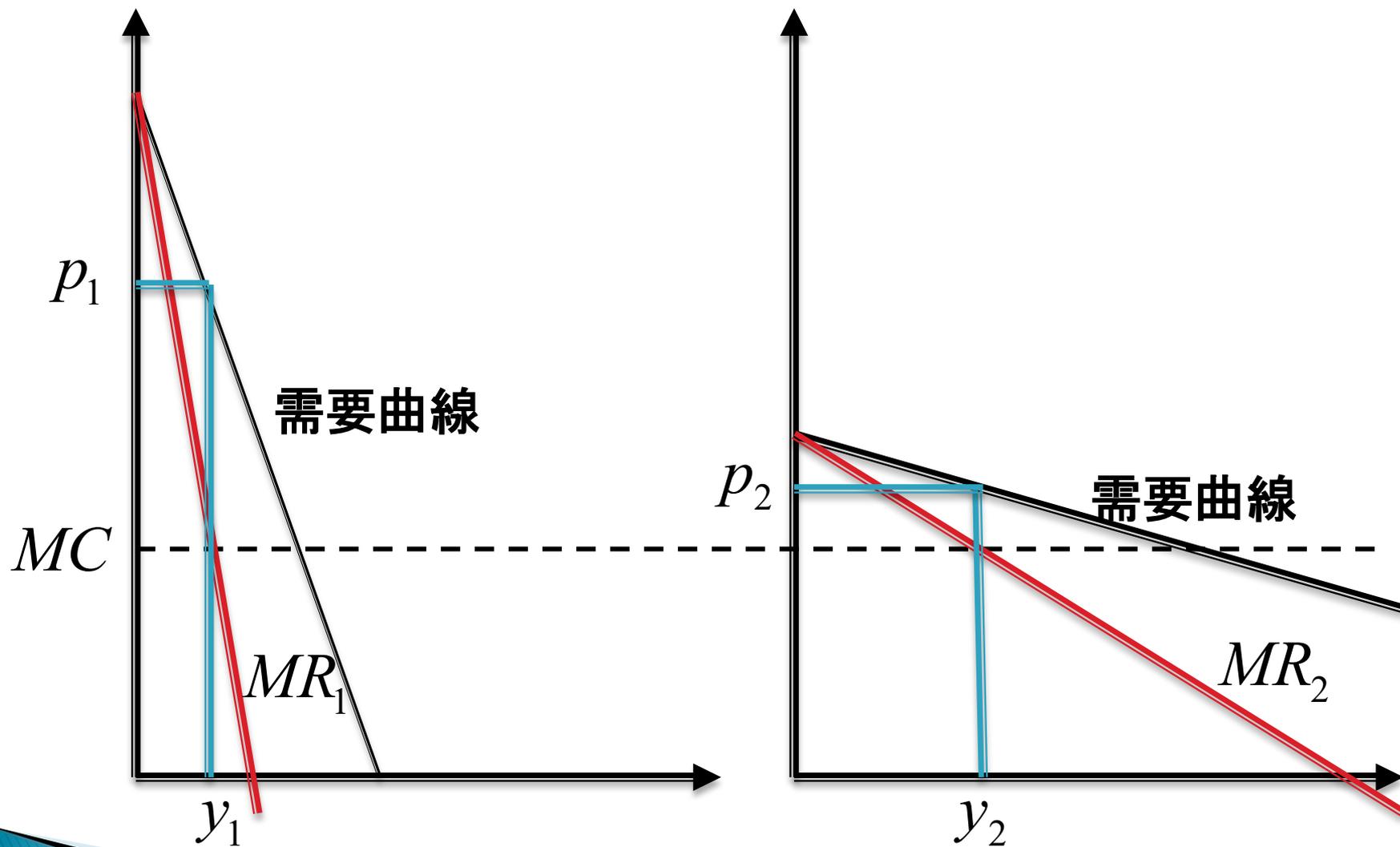
2. 本研究から得られる解釈

- ▶ 経済学の観点から、どのような状態が望まれるのか？
 - 適切な利用(混雑や混雑のかかるコストが抑えられる状態)のもとで、より多くの利用者が利用し、効用(満足)を得る状態、いいかえれば、経済厚生(総余剰)が高まる状態
- ▶ 時間帯別運賃
 - 需要の平準化＋混雑の緩和という効果
 - 混雑: 利用量が供給容量を上回る状態
 - 混雑によって社会的コストが発生する

2. 本研究から得られる解釈

- ▶ 本研究で焦点を当てていること
 - 日数限定定期や同伴割引
- ▶ 定期券のメニューの多様化
- ▶ コロナ禍の影響で、市場構造が変化し、利用者減の下でいかに収益を確保するかという問題に関連
- ▶ 定期券利用者の市場を分割し、その市場の拡大を図る方法
 - 価格差別
- ▶ 多様なメニューによって市場が分割され、それに伴って利用者の数が増えることで、全体としての利益(総余剰)が増加することも期待される。

価格差別(2つの市場に分割したケース)



3. 今後の課題として考えられること

- ▶ 価格設定に関する課題
- ▶ 価格差別
 - 同一の財・サービスについて、需要の価格弾力性が異なった市場/グループに、異なった価格をつけること
- ▶ 新たな定期制度を導入する場合も、需要の価格弾力性を把握する必要がある。
- ▶ これまでの提供的な分析結果から、価格弾力性の算出が可能か？

3. 今後の課題として考えられること

- ▶ 定期券のあり方
- ▶ 混雑現象や時間帯別運賃との関係は避けては通れない問題.
- ▶ 混雑現象の緩和
 - 需要面のコントロール
 - 時間帯別運賃・ダイナミックプライシング
 - オフピーク通勤の実施
 - 供給面のコントロール
 - 供給容量の確保
- ▶ これらの議論の整理が改めて必要

4. 質問など

1. 本報告に際して、需要の価格弾力性の計算は可能か？
2. 混雑やピーク・オフピークを踏まえて導入の効果を計測することは可能か？
3. 今後の研究の展開として考えていることは？



日本大学経済学部

ありがとうございました